

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

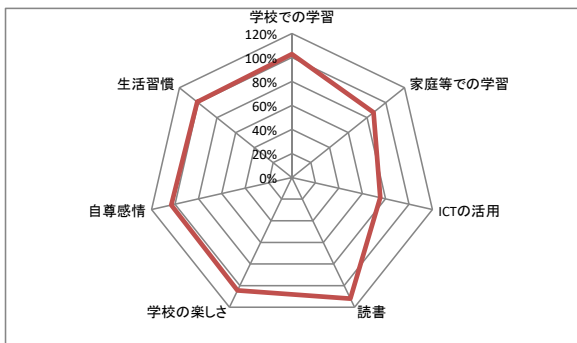
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるということは、正答率が高い。 - 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	【伝え合いの様子の一部】を基に、文章のよさを書く問題(32)	上回っている
	努力が必要な問題	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、どのように話すかを書く(14)	
算数	全体的な傾向や特徴など	- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することは、正答率が高い。 - 百分率で示された割合と基準量から、比較量を求めることに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ(1(4))	上回っている
	努力が必要な問題	荷重が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量をかく(2(2))	
理科	全体的な傾向や特徴など	- 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことは、正答率が高い。 - メスシリンダーなど、器具の扱い方の理解に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	観察していえることは、結果のどこを分析したものなのかを選ぶ(4(3))	同程度である
	努力が必要な問題	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く(2(1))	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 「読書は好きですか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 朝の読書タイムを全校一斉で取り組む。(毎週火曜日)
- 『ことば』を問いつける子どもを育てる国語教育のテーマで校内研究を推進し、授業公開で授業改善に向かう共通実践に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習への働きかけ
 - ・ 学校通信等で家庭学習の重要性を啓発するとともに、家庭学習の時間を10分×学年とし、その時間につり合う課題を与える。
- 全国学力・学習状況調査の結果、及び分析内容の保護者への周知
 - ・ 学校通信、学校ホームページで発信する。